

五輪選手村オープン



信濃毎日新聞社
 長野本社 〒380
 長野市南県町 657番地
 電話(026)
 受付236-3000編集236-3111
 販売236-3310広告236-3333
 松本本社 〒399
 松本市宮田 2番10号
 電話(0263) 編集 25-2151
 販売・広告・事業 25-2153
 ©信濃毎日新聞社1998年

期間中選手ら3300人が宿泊、交流へ

号外

五輪開幕まで14日



テープカットで開村した五輪選手村(長野市川中島今井)

世界各国・地域の選手たちが集う長野五輪の選手村が二十四日午前、長野市川中島町今井にオープンした。二十世紀最後の冬季大会、長野五輪の期間中、約三千三百人が宿泊、国境の壁を超えた交流を繰り広げる。

午前十時から村入り口前のロータリーで開村式。笹原正三村長や運営ボランティア、長野冬季五輪組織委員会(NAOC)職員ら約四百人が出席し、笹原村長は「十三日間すべてのスタッフが心をひとつにして、選手を家族の一員のように迎えよう」とあいさつした。森田健作文部政務次官や日本オリンピック委員会(JOC)の古橋広之進会長らも、若者が交流を深め相互理解を、と訴えた。

続いて近衛名誉村長が開村宣言。五輪旗と日の丸、NAOCエンブレム旗がはためく下でテープカット、約七十の国・地域から選手、役員が集う三十三日間の「小さな地球」が幕を開けた。

選手村にはさっそく米領バージン諸島や台湾のリージュ選手村が入村。初日に十二の各国・地域オリンピック委員会(NOC)の選手・役員計七十四人が入る予定だ。

二十四日は各国報道陣の取材拠点になるメインプレスセンター(MPC、長野市)、国際放送センター(IBC、同)もオープン。北安曇郡白馬村の八方尾根スキー場に五輪用の練習バーンが開設さ

五輪期間中、随時発行します

信濃毎日新聞社は、2月7日から始まる長野冬季五輪期間中、最先端の高速デジタル印刷により、1面日本語、2面英語のカラー速報を毎日、随時発行します。また、紙面はそのままインターネットで世界に発信します。

<http://www.shinmai.co.jp/olympic/>



第18回オリンピック
 冬季競技大会
 オフィシャルスポンサー

世界から長野へ。長野から世界へ。



NTTはデジタルネットワークで長野オリンピックに参加します。
 NTT is participating through our digital network.

白銀の世界を舞台に人間の限界に挑戦する熱い冬を、
 1998年2月 NAGANO。
 そこにあふれるのは言葉や文化の違いを超えた、喜びと喝采。
 その熱い感動の輪は、世界へ、そしてあなたへ。
 人から人へ、心から心へ。
 HUMAN COMMUNICATION with NTT

www.ntt.co.jp/olympic/